

シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイブ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

12
No-123

点と線



昨日消えた男

収蔵作品特集

福岡市文学館企画展示
「福岡ミステリー案内」関連企画

映画で愉しむ ミステリー



みるん♪

収蔵作品特集

カンヌ映画祭グランプリなど数々の賞に輝いた巨匠今村昌平監督の追悼上映

今村昌平監督特集



楯山節考



神々の深き欲望

Cin

映画で愉しむ ミステリー

12月6日(水)～10日(日)

観覧料: 500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

* 定員制。各回入替制。
* チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
* 障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

真昼の暗黒

点と線

●12月6日(水) 14:00
●12月9日(土) 14:00

おすすめ



1958年/35ミリ/カラー/85分/東映

監督: 小林恒夫 出演: 南広、山形勲

日本のミステリーに多大な足跡を残した松本清張の作品は、映画やTVドラマなどでも度々映像化され、現在でも高い人気を博しています。この「点と線」は彼の初期の代表作であり、「社会派ミステリー」ブームの先駆けとなった作品ですが、ミステリーの部分に重点が置かれており、犯人が張り巡らした偽装工作のトリックが刑事達の捜査によって徐々に暴かれるまでが、丹念に描かれた好編です。

これを井手雅人が脚色、小林恒夫が監督したのが本作です。事件の発端は福岡市の香椎の海岸。そこで一組の男女の死体が発見されます。死因は青酸カリ。遺書はありませんでしたが、衣服の乱れもなく、並んで横たわって死んでいることから、心中事件と思われました。しかし、一人の刑事が事件に疑問を抱き、捜査を続け、いくつかの不可解な点が発見されます。そこへ警視庁の若い刑事が彼を訪ねてやってきます。死んだ男は産工省の役人で、産工省が絡んだ贈賄事件の重要な証人でした。福岡の刑事の話でこの心中を偽装殺人とにらんだ警視庁は事件を再捜査し、容疑者として一人の男が浮かび上がります…。

当時の香椎駅周辺の風景なども撮影されていて、郷土資料としても興味深い作品となっています。

張込み

●12月7日(木) 14:00
●12月9日(土) 17:00



1957年

35ミリ

モノクロ

116分

松竹

監督: 野村芳太郎

出演: 高峰秀子

田村高廣

「砂の器」と同じ、原作松本清張、脚本橋本忍、監督野村芳太郎のトリオによる最初のミステリー映画。セミ・ドキュメンタリータッチの演出と確かな人間描写で日本のミステリー映画の名作の一つとなっている。東京でおきた強盗殺人事件の犯人を追ひ、刑事達は佐賀市にすむ犯人のものと恋人を張り込む…。

真昼の暗黒

●12月 8日(金) 14:00
●12月10日(日) 11:00



1956年

35ミリ

モノクロ

124分

現代版だくしん

独立映画

監督: 今井正

出演: 早稲幸二郎

左幸子

当時、裁判係争中の事件「八海事件」を扱った異色作。原作は弁護士正木ひろしによるノンフィクション「裁判官」。これを橋本忍が原作に沿って脚色した。山口県八海で二人暮らしの老夫婦が惨殺される。すぐに一人の男を逮捕するが、現場の惨状から複数犯とにらんでいた警察は、共犯として四人の若者を逮捕する…。

昨日消えた男

●12月7日(木) 19:00
●12月9日(土) 11:00



1941年

35ミリ

モノクロ

89分

東宝

監督: マキノ正博

出演: 長谷川一夫

山田五十鈴

ダシル・ハメットの推理小説「影なき男」を原案に、舞台を江戸時代の下町の長屋に置き換えた異色時代劇ミステリー。脚色は黒澤作品などでも知られる小国英雄。江戸の裏長屋で大家の勤兵衛が何者かに殺される。強突張りで情け知らずの勤兵衛は長屋のみんなから嫌われていたが、文吉と浪人の篠崎源衛門が疑われる…。

ゼロの焦点

●12月 8日(金) 19:00
●12月10日(日) 14:00



1961年

35ミリ

モノクロ

95分

松竹

監督: 野村芳太郎

出演: 久我美子

高千穂ひづる

「張込み」や「砂の器」と同じ原作、松本清張、脚本、橋本忍、監督、野村芳太郎によるサスペンス・ミステリー映画の佳作。元巡査でいまは広告会社に勤める男が金沢で死亡する。しかし妻はその死に疑問を覚え、一人真実の究明に乗り出す。事件の詳細が明らかになるに従い、彼女が知らなかった夫のもう一つの過去が…。

福岡市文学館 企画展

入場
無料

福岡ミステリー案内 赤煉瓦館事件簿

福岡ゆかりのミステリーを一堂に紹介

会場: 福岡市文学館 (中央区天神1丁目15-30)

平成18年

平成19年

12月1日(金)～1月14日(日)

午前10時～午後7時

休館日: 毎週月曜日(祝日の時は翌日)、年末年始(12/28～1/4)

主催: 福岡市文学館(福岡市、福岡市文学振興事業実行委員会)
後援: (財)福岡市文化芸術振興財団

問い合わせ先 福岡市総合図書館文学・文書課

電話 092-852-0606



画展では、福岡ゆかりの作家を紹介すると共に、福岡における彼らの活動を追います。更に今回は、全国の作家作品にも目を向け、ミステリーに描かれた「福岡」に注目していきます。福岡でおこった実在の事件や交通機関との連関、また、警察署管区ごとに発生する事件や地域の具体的な描写を通して、福岡という都市、更にはそこで生きる人々の動静を浮き彫りにしていくと同時に、「観光」「経済」「国際」といった都市のキーワードに沿った考察を試みます。

日本におけるミステリーは、明治期の「探偵小説」に端を発すると言われます。福岡にも早く、明治期の新聞に福岡を舞台とした探偵小説が掲載され、大正期に入ると夢野久作、大下宇陀児、昭和初期には渡辺啓助が雑誌「新青年」等を舞台に活動を始めます。戦後ミステリーブームの渦中、昭和三十年代には多岐川恭が「落ちる」で直木賞を受賞、その後石沢英太郎、中村光至、夏樹静子らが福岡を拠点に執筆活動を行いました。最近では、ミステリーというジャンルに留まらない乙一や東山彰良の活躍が話題を呼んでいます。本企画

収蔵作品特集

平成18年5月30日に亡くなった日本映画を代表する
巨匠今村昌平監督の追悼上映

今村昌平監督特集

12月13日(水)～24日(日) ※休館日・休映日除く

観覧料: 500円(大人) 400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

* 定員制。各回入替制。
* チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
* 障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)

楳山節考

にあんちゃん

●12月13日(水) 14:00
●12月16日(土) 14:00
●12月24日(日) 11:00



1959年

35ミリ

モノクロ

101分

日活

監督: 今村昌平

出演: 長門裕之

前田暁子

10歳の少女の日記が原作。佐賀県の小さな炭鉱町。炭坑夫の父親が死に、20歳になる長男の喜一と3人の弟、妹達だけが残された。町は不況に喘いでおり、助けてくれる人もいない中、4人は貧しくともけなげに生きていく。今村の現実に対する確かな視線を感じさせながらも、子供たちの健気さ、前向きさに好感が持てる作品。

豚と軍艦

●12月15日(金) 19:00
●12月17日(日) 11:00
●12月22日(金) 14:00



1961年

35ミリ

モノクロ

108分

日活

監督: 今村昌平

出演: 長門裕之

吉村実子

基地の町、横須賀に集うヤクザ達が、米軍から出る大量のゴミをあてこみ、養豚業を始める。欲に目がくらんだ人間達の中で、どんな逆境の中でも強い意志と前向きさで生きる少女と、彼女の恋人で成り上がることでだけを夢見るちびらの青年を中心に描いた「重喜劇」の代表作。

赤い殺意

●12月14日(木) 14:00
●12月17日(日) 14:00
●12月21日(木) 18:30



1964年

35ミリ

モノクロ

150分

日活

監督: 今村昌平

出演: 春川ますみ

西村晃

東北地方のある町。主人公は外では小心者だが家では横暴な夫のもとで、怯えるように暮らしていた。夫と息子が家を空けた夜、強盗が押し入り、強姦される。それすらも言いだせないでいる彼女のもとへ、再び強盗が現れ…。強盗との関係をきっかけに強さを取り戻していく女性と、弱さを露わにしていく男達との対比を描いた作品。

人間蒸発

●12月14日(木) 19:00
●12月21日(木) 14:00
●12月23日(土・祝) 11:00



1967年

35ミリ

モノクロ

129分

今村プロ

ATG

日本映画新社

監督: 今村昌平

出演: 露口茂

原因不明のまま、忽然と失踪した男性を、今村監督と撮影クルーが蒸発した男の婚約者とともに捜索するという異色のドキュメンタリー。俳優の露口茂が今村の代りに彼女に付添い捜索を続けていくが、捜索は難航、男の過去を調べなおすうちに、様々な疑問が出てくる。ドキュメンタリーとフィクションが混在していく展開も見事な作品。

神々の深き欲望

●12月15日(金) 14:00
●12月20日(水) 14:00
●12月23日(土・祝) 14:00



1968年

35ミリ

カラー

174分

今村プロ

監督: 今村昌平

出演: 三國連太郎

河原崎長一郎

文明から隔離され、現在なお土着の信仰と因習が色濃く残る南の島、クラゲ島。原始的な宗教観に支配された架空のこの島に、今村昌平は現代日本を投影した寓話を描く。閉鎖的な人間関係、中央と地方、近代化など様々な要素がドラマティックに盛り込まれた今村昌平の代表作。

楳山節考

●12月16日(土) 11:00
●12月22日(金) 18:30
●12月24日(日) 14:00



1983年

35ミリ

カラー

130分

東映・今村プロ

監督: 今村昌平

出演: 緒形拳

坂本スミ子

ある山奥の貧しい寒村では長男だけしか、妻をめとらず、70歳を超えた老人は山に捨てなければならないという掟があった。深沢七郎の原作を、1958年の木下惠介以来、二度目の映画化。人間の強さと弱さ、滑稽さと悲しさをリアリズムの中で見つめた作品であり、カンヌ映画祭グランプリを受賞した。

Shouhei Imamura 今村昌平・プロフィール



今村昌平は1926年東京生まれ。1951年に松竹に入社。助監督時代は小津安二郎や野村芳太郎、渋谷実などにもつくが、彼が生涯、師と仰いだのは川島雄三である。弟弟子にあたるのが浦山桐郎。その川島が1954年製作を再開した日活に移籍すると浦山とともに日活へいき、川島作品の助監督をつとめる。川島の代表作「幕末太陽傳」(1957年)では脚本を田中啓一と共同執筆している。川島はこの作品を最後に日活を退社するが、今村は浦山とともに日活へ残り、1958年に監督昇進、この年の監督三作目となる「果てしなき欲望」で欲の皮の突っ張った人間達をユーモラスに描き、ブルーリボン新人賞を獲得した。この時期、こうした作品を自ら「重喜劇」と名付けている。1959年には「にあんちゃん」で、芸術祭賞を受賞。不況にあえぐ炭鉱で貧しさで戦いながらけなげに生きる子供達の姿を描いた作品だが、自らは国の推薦、受賞を受けるような作品を作ったことに対して自戒する。翌年、重喜劇の代表作「豚と軍艦」を発表。1962年には弟弟子の浦山の監督デビューのため

に「キューボラのある街」のシナリオを書き下ろす。その後、「にっぽん昆虫記」(1963年)、「赤い殺意」(1964年)と底辺に生きる女性のしたたかさを力強く描いた作品を発表し、国内外で高い評価を受ける。1965年に今村プロを設立、1967年には異色のドキュメンタリー映画「人間蒸発」を監督し、毎日映画コンクール監督賞を受賞。1968年には大作「神々の深き欲望」を手掛ける。1970年代は主にTVシリーズなどを手掛けるほか、1975年には横浜放送映画専門学院(現・日本映画学校)を開校、校長を務める。1979年、「復讐するは我にあり」で日本アカデミー作品賞他、各賞を受賞。1983年の「楳山節考」でカンヌ映画祭グランプリを獲得、日本映画の巨匠として世界的にも注目を集める存在となる。1997年「うなぎ」で再びカンヌ映画祭グランプリ(パルムドール賞)を受賞。二度のカンヌ映画祭グランプリは日本人初、世界でもわずか五人ほどしかいない快挙であった。平成18年5月30日に享年79歳で病氣のために死去。その死に際してはフランス政府からも文化勲章が贈られている。また実子の天願大介も監督、脚本家として活躍中。

1 金 休 映 日
2 土 休 映 日
3 日 自主上映【福岡映画サークル特別上映会】

4 月 休 館 日
5 火 休 映 日

6 水 (14:00) 点と線
7 木 (14:00) 張込み (19:00) 昨日消えた男
8 金 (14:00) 真昼の暗黒 (19:00) ゼロの焦点
9 土 (11:00) 昨日消えた男 (14:00) 点と線 (17:00) 張込み
10 日 (11:00) 真昼の暗黒 (14:00) ゼロの焦点

11 月 休 館 日
12 火 休 映 日

13 水 (14:00) にあんちゃん 昨日消えた男
14 木 (14:00) 赤い殺意 (19:00) 人間蒸発
15 金 (14:00) 神々の深き欲望 (19:00) 豚と軍艦
16 土 (11:00) 檜山節考 (14:00) にあんちゃん
17 日 (11:00) 豚と軍艦 (14:00) 赤い殺意

18 月 休 館 日
19 火 休 映 日

20 水 (14:00) 神々の深き欲望 赤い殺意
21 木 (14:00) 人間蒸発 (18:30) 赤い殺意
22 金 (14:00) 豚と軍艦 (18:30) 檜山節考
23 土(祝) (11:00) 人間蒸発 (14:00) 神々の深き欲望
24 日 (11:00) にあんちゃん (14:00) 檜山節考

25 月 休 館 日
26 火 休 映 日

27 水 休 映 日

28 木 年 末 年 始 の 休 館 日

2007年1月

4 木

特別企画

稲垣浩と豊田四郎

2005年生誕100年を迎えた日本映画の巨匠
稲垣浩監督と豊田四郎監督の代表作を上映
1月5日(金)～20日(土)



●上映作品

宮本武蔵・決闘巖流島

「無法松の一生」(阪東妻三郎主演)
「手をつなぐ子等」(宮本武蔵・決闘巖流島)
「無法松の一生」(三船敏郎主演)
「風林火山」「夫婦善哉」
「猫と庄造と二人のをんな」「雪国」
「如何なる星の下に」「台所太平記」

特別企画

放浪三昧

サイレント映画弁士・
楽団付き上映

無声映画を弁士・楽団付きで上映するシリーズ企画。稲垣浩監督のサイレント期の傑作「放浪三昧」を上映

1月21日(日)

●上映作品

「放浪三昧」

1928年/16ミリ/モノクロ/サイレント
片岡千恵蔵プロダクション
監督:稲垣浩 弁士:澤登翠
楽団:カラードモートン
事前申し込みが必要。
申し込み方法はシネラニュース1月号を
ご覧下さい。



■ホームページ

「うえぶシネラ」をご覧ください。

●うえぶシネラアドレス

<http://www.cinela.com>

I N F O R M A T I O N

■自主上映のお知らせ

12月3日(日)福岡映画サークル特別上映会

●蟻の兵隊(11:00)(14:00)

観覧料/前売り:1,200円 当日:1,400円 シニア:1,000円 主催/福岡映画サークル協議会
(TEL092-781-2817) *詳細については、直接主催者にお問い合わせください。

■映像ホール利用申込について

映像ホール・シネラで自主上映(非営利に限る)を希望される方は、
下記のとおり利用申込の受付を行いますのでお申込ください。

●利用申込対象期間:平成19年6月～11月まで *別途配付の申込用紙に対象日を掲載しています。

●申込受付期間:平成18年11月26日(日)～12月8日(金)まで *休館日を除く

●抽選日:平成18年12月9日(土) 午前11時より

●抽選会場:福岡市総合図書館 3階第2研究室

●利用申込用紙:福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出ください。



■交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄:西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス:天神～都市高速経由～福岡タワー南口(所要時間:昼間で約20分)*博多駅～都市高速経由～
福岡タワー南口(所要時間:昼間で約25分)福岡タワー南口バス停から徒歩3分。いずれも、昼間は10～15
分間隔で運行されていますので、大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道
テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

福岡市総合図書館
映像ホール・シネラ

〒814-0001

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館

(代表)092(852)0600

映像資料課 092(852)0608

FAX 092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

ホームページアドレス

<http://www.cinela.com>

ICAL

株式会社 アイカル

〒814-0001

福岡市早良区百道浜2丁目1-22

福岡 SRPセンタービル7階

TEL 092-832-8831

URL:<http://www.ical.co.jp>